

(様式6)

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	2874100536		
法人名	特定非営利活動法人日本地域福祉協会		
事業所名	街かどケアホームももか		
所在地	兵庫県揖保郡太子町下阿曾15-1 (電話) 079-275-0755		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2009年1月20日	評価確定日	2009年3月13日

【情報提供票より】(20年11月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 3月 15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12人, 非常勤 2人, 常勤換算	12人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建て	1 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護 1	6名	要介護 2	6名		
要介護 3	3名	要介護 4	2名		
要介護 5	0名	要支援 2	0名		
年齢	平均 82 歳	最低	67 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	二の丸内科・岩崎歯科医院
---------	--------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・ホーム開設時から、地域との関わりに地道に取り組んできた。現在は自治会に加入し地域活動や行事に参加する機会も増え、施設を開放しバザーを開催するなど積極的に双方向の関係性を築きつつある。地域の相談窓口となり認知症の専門知識やノウハウを還元していきたいと検討している一方、職員のスキルアップのための独自の試験制度を取り入れ、さらにサービスの質の充実向上を図っている。県下で母体法人傘下の4施設が協働していたが、今後は各施設の独自性を高め地域型のグループホームを目指しつつある。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	・個別の外出の機会についてドライブその他の外出機会作りについて検討実施している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	・自己評価は全職員で行った。管理者として職員の自己評価については、個人差もあったが、利用者をベースにした総合的な取り組みの機会とした。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	・2ヶ月に1回開催しているが、行政担当職員、自治会等地域代表の参加は得られていない。近隣住民や行事参加者をお誘いして出席をお願いしている。家族には全員案内し、希望者に出席してもらっている。現在まではホームからの現況報告にとどまっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	・家族会や個人面談時以外にも日常的に来訪する家族は多く、意見や要望などが出やすくなってきている。苦情等は検討会議で話し合い、結果を家族に報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	・地域の祭りなどの行事や清掃などの地域活動への参加は、従来通り継続して行っている。徐々に近隣住民との挨拶や会話の機会が増え、馴染みの関係が深まりつつある。今年の夏祭りはホームを開放してバザーなどを開催し多数の近隣住民の参加が得られ、双方向の交流につながった。今後は地域に向けた相談案内を検討中である。

2. 第三者評価結果票

第 三 者	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・母体法人の施設運営理念にはすでに地域との関わりが盛り込まれており、重視する姿勢がとられている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・サービス提供だけでなく、日常的に職員自身が理念を体感することが必要という目的意識を持って取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・これまで行ってきた地域活動や行事参加は継続している。その結果近所との挨拶や会話も増えつつある。今年の夏祭りはホームを開放してバザー等のイベントを開催し、さらに交流を深めた。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は全職員で取り組んでいる。利用者の希望とともに第三者からの指摘も重視し、第三者と利用者、家族の思いをトータルで考えていく機会と捉えている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回開催しているが、地域住民の参加は少なく行政担当者の出席も無い。全家族に参加案内を出し、希望者が出席している。行事に参加した近隣住民などに出席をお願いしている。ホームの近況報告が主である。	○	・地域に関心が少ない実情は察するが、今後もホームから積極的に参加を促す呼びかけを期待したい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・行政担当職員とは、施設長が定期的に報告を兼ねて訪問している。今後は職員も含めた交流の機会をつくっていきたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎週必ず家族の希望に併せ電話や手紙で状況を報告している。金銭管理報告は、毎月確認をとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・来訪する家族が多く、現場の職員が直接希望を聞いている。家族会及び半年に一度開催される面談時にも十分時間を取っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・異動はほとんど無い。離職があった場合は、現職員でカバーしながら時間をかけ馴染みの関係を築くよう努めている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・ 職員からの要望も取り入れて必要に応じ毎月勉強会を行っている。今年度からは独自のスキルアップ試験制度を実施し、職員自らがステップアップする機会を作っている。		
11	20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・ 地域の同業者間の交流は無い。母体法人内の他事業所との相互交流は図られている。	○	・ さらに職員間の交流機会にも広げることが望まれる。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・ 馴染みの関係を築くために職員が利用者宅を訪問したり、体験入居やデイサービスを利用しながら関係を深めている。環境を極力変えない方向で家族と話し合い協力を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・ 利用者の持っている豊富な経験と知識から学ぶことも多く、教えていただくという姿勢で日々接している。利用者と共に生活できることに感謝し、おもてなしの気持ち(ホスピタリティ)を常時持ち続けられるよう心がけている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ 常に本人の意向や思いを優先しているが、意志が出し難い場合はホスピタリティの精神で、本人の意向に添うよう配慮している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・ 利用者本位の介護計画となるよう本人、家族と出来るだけ話しをし、計画に反映させるよう努めている。毎月のモニタリングで、職員自身が利用者の日々の状態確認、振り返りがしやすくなった。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・ 入退院時だけでなく、毎月のモニタリングにより利用者の状況変化を見逃さず、随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・ 医療連携加算を活かした早期退院の支援、併設デイサービスとの交流、2月から短期入所開始等事業所の多機能性が活かされている。また、「よるず相談所」を4月からスタートし、認知症、グループホーム、介護保険制度の利用等の相談にのっていく予定である。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医、かかりつけ医、利用者の希望に添って受診を支援している。受診には職員が付き添い、結果を家族に伝えている。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・看取りの指針に基づいて家族の同意をもらっている。重度化した時点で再確認している。まだ看取りはしていないが、医師、看護師、家族、職員で話し合う体制は整っている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・守秘義務についての契約は雇用時に取り交わし、羞恥心への配慮は入浴時の同性介助や声かけに注意している。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人に選んでもらいやすいようにいくつかの選択肢を示し、本人の希望に職員が直ちに対応するよう努めている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・ 食事時間にはご飯はジャーに、汁物は鍋に入れて、各自が自分の食器によそっている。利用者の中に自分の仕事として率先して食器洗いをする人もいる。調理はほとんど職員がやっている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・ 入浴時間、回数は特に決まりはない。温泉の素を入れたり自由に入浴を楽しんでいる。入浴を拒む人にも声かけし、入浴が日課になってきている。全介助の方の入浴が十分支援できていない。	○	・ 全介助の方も看護師の協力を得て、定期的に入浴できるよう実践を期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・ ホーム内での家事や買い物等の役割分担、犬好きな人の居室の前にホームの飼い犬の小屋を置くこと、職員の畑の手入れ支援、外出の個別対応等楽しみを何かひとつでも継続してもらえるよう努めている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・ 自宅訪問、美容院、チラシを見ての夕食等外出を増やすことに努めている。その日の利用者の希望をかなえるよう、職員間で協力調整している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・ 家族に鍵をかけないケアについて説明し、職員が利用者個々に気配りしている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・消防署の指導の下、年2回避難訓練を行っている。マニュアルを作成、備蓄の用意もされている。	○	・個々の利用者の避難方法のマニュアル化と地域住民への協力依頼等を検討してはいいかがか。
hinan					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・おおよその栄養摂取や水分摂取を把握している。摂取量の少ない人は看護師と連携して他のもので補う等している。共有スペースにお茶、冷蔵庫に乳酸飲料が用意され、水分を摂取しやすい環境を作っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・カラオケやビデオ映写室も設けられている。リビングは広く、コタツコーナーがあり、くつろげるスペースになっている。利用者の動きに合わせて椅子やソファ、テーブルが配置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・馴染みの家具を持ち込んで、居心地よく過ごしてもらっている。居室の入り口にチャームを付けている人、表札も希望に応じてかけている人もいる。居室のドアから職員は必ず履物を脱いで入る。		

 は、重点項目。